

発刊に寄せて

この度、「過活動膀胱診療ガイドライン[第3版]」が発刊されました。2015年の第2版以来、実に7年ぶりの改訂です。7年も間が空くと様々な新たな知見が出てきますが、本ガイドラインは、それらのうち、エビデンスレベルが高く、推奨グレードを決める要となるような文献を拾い上げて最新の内容を盛り込んだガイドラインとなっています。作成委員および評価委員は日本排尿機能学会、日本泌尿器科学会の主要なオピニオンリーダーといえるメンバーで構成されています。

ご存知の通り、過活動膀胱は罹患者数が1,000万人を越え、国民病と言っても過言ではありません。生命に直接関わるような疾患ではないものの、患者のQOLを極めて低下させる疾患であり、泌尿器科医のみならず、内科医、婦人科医もが診療に当たる機会が少なからずあります。

したがって、本診療ガイドラインは多くの診療医にとってわかりやすく、使いやすいものである必要があります。診療アルゴリズムも、泌尿器科専門医向けと一般医家向けにわけて記載されていますので、利用しやすくなっています。最近のガイドラインはCQの作成段階において、PICO形式が採用されていますが、本ガイドラインもそのようにCQを設定し、読者にとって何が問題なのかがわかりやすく作成されています。CQは34まで設定されており、細分化されたCQまで加えると50以上のCQで構成されています。なかでも、難治性過活動膀胱の治療の部分、高齢者・フレイルとの関連が取り上げられているところがポイントです。このように非常に充実した診療ガイドラインですので、是非とも日常の診療の手引きとしていただければと思います。

最後に、本診療ガイドラインの作成に当たられた作成委員、評価委員の皆様にお礼申し上げます。

2022年8月

一般社団法人 日本泌尿器科学会
理事長 野々村 祝夫

序

過活動膀胱診療ガイドライン第2版が2015年に刊行されてから7年が経過し、今回第3版が発刊されました。第2版が刊行されてからのこの7年間で薬物併用療法のエビデンスが蓄積されてきました。また、難治性過活動膀胱に対するボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法や仙骨神経刺激療法が我が国においても保険適用となり、過活動膀胱治療の状況が大きく変化してきました。過活動膀胱は高齢者に多いため、フレイル・認知機能低下との関連で過活動膀胱診療を見直す必要性も増してきました。このような背景から、改訂第3版が刊行されることとなりました。

本ガイドラインでは専門医を対象とした診療アルゴリズムが変更され、男性患者では前立腺肥大症の有無、女性患者では骨盤臓器脱の有無により診療の流れが区別され、専門医がより緻密に診療を進めることを可能としています。クリニカルクエスション(CQ)もより充実し、実臨床に役立つ知識が網羅されています。フレイル・認知機能低下についての解説が追加され、診療アルゴリズムにおいてもフレイル・認知機能低下の取り扱いについて追記されています。過活動膀胱治療の実臨床調査では、患者の過半数が後期高齢者であり、過活動膀胱に対する治療と同時にフレイル・認知機能低下に対する予防や介入を行うことは、健康長寿を目指す我が国において喫緊の課題です。

本ガイドラインでは、独立した章として、「低活動膀胱を伴う過活動膀胱について」、「限局性前立腺癌治療に伴う過活動膀胱」が新たに追加され、過活動膀胱診療に関連する重要なテーマが取り上げられています。第2版よりも大幅に充実した本ガイドラインは、実臨床におけるさまざまな疑問に明快に答えてくれる内容であると思います。本ガイドラインが過活動膀胱診療に関わる一般医家、専門医、看護師などの医療従事者に活用され、適切な過活動膀胱診療の普及に役立つことを期待いたします。最後に、本ガイドラインの作成に多大なご尽力をいただきました武田正之委員長をはじめ委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

2022年8月

一般社団法人 日本排尿機能学会
理事長 柿崎 秀宏